

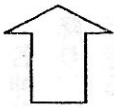
撰津なつかし写真館



郷土撰津
いにしえ通信

第15号

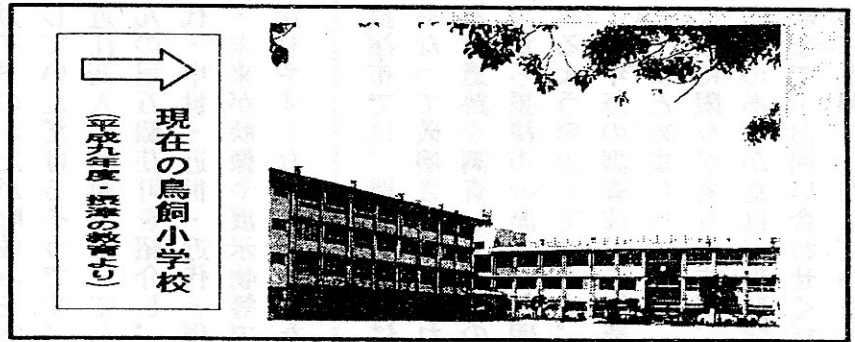
平成十一年七月一日
発行
撰津市三島一丁目一番一号
撰津市教育委員会
生涯学習部 生涯学習課



鳥飼小学校

大正3年3月撮影

鳥飼小学校提供



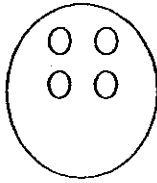
明治七年三月、鳥飼中・下・西・八防・野々五か村連組合立による、第四小区で最初の善勝寺内に創立されました。同年、四月に鳥飼上・八町二か村組合立による鳥飼二番小学が、鳥飼上の誓覚寺内に創立されました。



明治十五年、各村の学校を廃止して、鳥飼七か村連組合立として、鳥飼下に鳥飼小学校が創立されました。同二十五年鳥飼下の二十三番地に移転。更に大正十二年に現在の鳥飼下二三〇番地に移転されました。

心に響く・99サマー

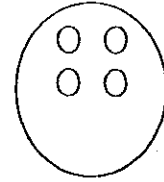
※申し込み・問い合わせは別府公民館まで



夏休み体験学習

古代の音色・土笛をつくらう

お知らせ



【とき】

七月二十五日

かたちづくり

七月三十一日

野焼き

【ところ】

別府公民館

【定員】

十五名

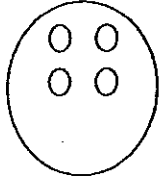
【材料費】

五〇〇円

【対象】

小学生

◎弥生時代の楽器を粘土でつくります。自分でつくった土笛を吹いてみましょう。



埋もれた長津市の歴史

平成9年度・10年度発掘調査の概要

投稿欄「とも」

近江路をたずねて

香露園在住 フ・〇

テレビの「近畿の旅」で五個荘町を紹介していました。とても気に入りました。さつそく車で行くことにしました。

五個荘町は、近江商人のふるさとだそうです。いままでも近江八幡市は知っていました。が、そのほかにも日野町とか

豊郷町、湖東町、安曇川町も近江商人のふるさととして知られています。各市町に近江商人の資料館があります。

名神高速の竜王インターで降り、国道八号線を三十分ほど走ると五個荘町に着きました。まず最初に総合案内所に行き、資料をいただきました。団体で行くと観光ボランティアガイドのかたが町並みを案内していただけるそうです。

近江商人博物館では、てんびんの里五個荘町を紹介し、古代・中世・近世・近代・現代・未来が映像や展示物等でわかりやすくなっていました。

◎長津市では、開発や建築にともなう破壊されるおそれのある遺跡を調査して、その成果から長津市の歴史が解明できるよう努力しています。そこで年毎の調査成果を概要としてまとめました。

◎部数に限りがありますが、ご関心のあるかたは、生涯学習課まで、お問い合わせください。無料で配布しています。

博物館を出てからは、白壁と蔵屋敷の町並みをぶらりと

しながら、帰途につきました。博物館のほかにも、歴史民俗資料館、中国をはじめヨーロッパの美術品・民族品がいっぱい展示している観峯館、近江商人屋敷外村宇兵衛家、弘誓寺等、一日ゆっくりしてもまわりきれないほどです。もう一度五個荘町に行きたいと思っています。



1. 長津市における試掘調査
2. 長津市における埋蔵文化財調査の成果
3. 市内の遺跡
4. 市内の採集遺物
5. 普及・啓発活動
6. 埋蔵文化財の取り扱いについて

内容



味舌の近代交通

(明治・大正・昭和)

鉄道

味舌地区を通過した近代的交通機関は、現代のJR東海道線でした。文明開花の象徴であった鉄道の建設は、明治新政府にとって、統一政権の基礎を固めるための必須の大事業でした。政府は、明治五年九月に東京（新橋）―横浜間の鉄道を開通させたのを最初として、ついで大阪―神戸間、大阪―京都間の鉄道を建設しました。大阪―京都間の鉄道は、四年六月に測量を開始し、六年十二月に起工して、九年七月二十八日にまず大阪―向日町間が竣工し、中間に高槻駅を置き、仮に運輸を開始して旅客の乗車を許されていきました。八月九日には吹田・茨木・山崎の三駅が開設されました。一日六往復、所要一

時間二十八分でした。味舌地区は通過しただけで、駅が設けられませんでしたので、大多数の人々は、毎日の日常生活の上において、直接的関係を持つことはほとんどなかったでことしよう。

しかしこの鉄道の開通により、淀川を軸にした交通体系から鉄道を軸とするものへと大きく転換していきました。そのため淀川水運は次第におとろえていきました。また、中内（現千里丘東五丁目）まであった金剛院の敷地もこの鉄道により分けられてしまいました。大正十二年には、東洋一の規模をほこる吹田貨物操車場が味舌地域に開設され、広大な田地が敷地として買収されたばかりでなく広く長い敷地のため、南北に分断され、地域の発展にも影響を及ぼしました。

私鉄としては、京阪電鉄が

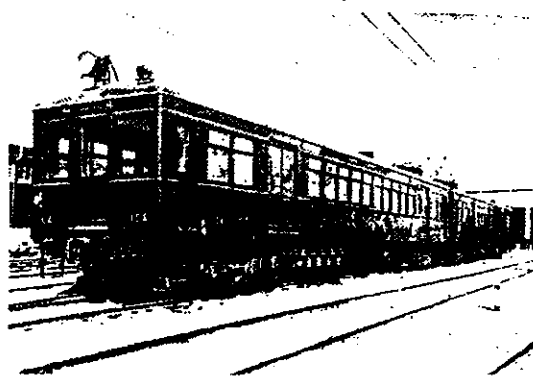
明治四十三年に天満橋から淀川左岸を走って京都五条まで開通していました。しかし、その軌道はカーブが多く、スピードアップも思うようになりませんでしたので、淀川右岸にもう一本京阪間連絡鉄道の建設が計画され、大正十一年に子会社として新京阪電鉄（現在、阪急電鉄）が設立されました。新京阪の計画では、本線のほかに、その西側をほぼ併行して、吹田から三宅（現在、茨木市宇野辺）を経て高槻に至る支線も計画され、十四年に追加申請されましたが認可されませんでした。その年の十月には、まず天神橋―淡路間が開通しました。そして、昭和三年一月に、天神橋―高槻町間が開通しました。

この時、正雀駅が味舌村内に設けられ、これが本市域内における最初の近代的交通機関の駅となりました。また、同時に正雀に車両整備工場が建設されました。

正雀駅が出来る、駅付近には、新しい住宅や店舗が建ちはじめ、人口がしだいに増

えだしました。大字正音寺の一部を主体として、大字庄屋・大字味舌の一部を加えて、大字正雀が分画制定されました。

昭和になって、京阪間の東海道線復々線及び電化工事が進められ、昭和十三年十二月には千里丘駅が開設されました。その影響が直ちに人口増加となって現れ、都市化の原動力となりました。



→ 新京阪の新鋭車両100型
昭和三年一月撮影

「摂津市史」より担当（茗荷）

考古雑話

第 1 5 回

探津市と水田の考古学

水田発掘のあゆみ(三)

前回は、水田発掘の学史上重要な奈良県唐古・鍵遺跡について紹介しました。今回は静岡県静岡市に所在する登呂遺跡(とろいせき)について説明します。登呂遺跡は歴史の教科書にものっている著名な弥生時代の遺跡です。

第二次世界大戦も終局をむかえつつある一九四三年、当地に軍需工場が建設されることになりました。その時掘削をはじめると土器をはじめ、杭、矢板、畦跡、水路跡などが多数出土・検出されました。そこで発掘調査が実施されたのですが、戦局は悪化をたどり発掘調査は、わずかに十五日間ほどで打ち切られてしまいました。この時の遺物や記録

の多くは空襲で焼失してしまいました。

このまま登呂遺跡は歴史の闇に消えてしまいそうになりましたが、地元の人々のあいだで再発掘の気運が高まりました。荒廃した世相のなか、弥生村を解明し、いくぶんでも心のよりどころとしようと考える人が多かったのです。

このような地元の熱意と同様な動きが東京の研究者のなかでもありました。そして、一九四七年七月、ともに協力しあい組織的な登呂遺跡の発掘調査が実施されたのです。翌年には、この調査が契機となつて考古学研究者がひとつとなり、今日でも続いている日本考古学協会が設立されます。発掘調査は一九五〇年まで日本考古学協会の仕事として多くの研究者や学生が参加

して行われました。

登呂遺跡の発掘の成果はなんと云つても、弥生時代の農村が水田そのもので初めて明らかになったことです。弥生時代後期の住居跡と水田がセットで見つかったことは、当時としては画期的なことでした。また水田には、水路、取水用の堰、排水用の暗渠、矢板や杭で補強された畦畔などの遺構をともない、当時から



史跡公園として整備された登呂遺跡
新人物往来社刊『野外復元日本の歴史』より

ほぼ完成された水田経営を行っていたことは、当時の弥生水田の認識をくつがえすものでした。

しかし重要なことは、暗い話題しかなく、日本中がふざぎこんでいた時代に、明るい話題を提供したことではないでしょうか。歴史を知り、過去を学ぶことが、人が生きる活力となることもあるのだと思います。(つづく)

【そ】 層位学的方法

○考古学の研究方法のひとつで発掘調査をすすめる基礎となります。○遺跡において異なる堆積が見つかれば、その上下関係を調べます。通常自然に堆積しない場合層のほうを考えられます。○それぞれの層に含まれる遺物の上下関係から相対的な年代が得られます。木簡など年号のはいった遺物と同じ堆積の遺物には絶対的な年代が与えられます。担当(伊部)

